

建築 と 社会

ARCHITECTURE
and SOCIETY

1 | NO.1078 | 2012
日本建築協会

■特集予告

2月号/今、私が思う「和」
3月号/東海支部特集

印刷 2011年12月25日
発行 2012年1月1日
発行人 社団法人日本建築協会
発行所 社団法人日本建築協会
大阪市中央区大手前1-7-31
電話 06-6946-6981
印刷所 ㈱NPCコーポレーション
定価 1200円(税込)

©「建築と社会」誌の記事の無断転載を禁じます。

2012年度の表紙

作品: 國府理 表紙デザイン: 灰田瑞穂 協力: アートコートギャラリー

私は、私やあなたが選択しなかった世界を想像するのが好きだ。その世界をあなたが選択しなかった理由はいろいろあると思うけれど、あえて、無理を承知で作ってみる。すると、現在の世界が些細なこと積み重ねて出来上がっていることがなんとなくわかる。そうしながら選択した世界をわかっていけたら、と思う。(國府)

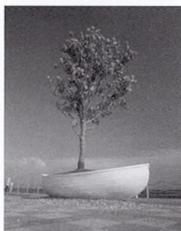
國府理 Osamu KOKUFU

1970年京都府生まれ。1994年、京都市立芸術大学大学院修了。乗り物の形態をモチーフに、植物や生態系そのものを組み合わせた大型彫刻を制作する現代美術家。国内外の美術館等で個展やグループ展多数。2011年イタリア、フォルトゥーニ美術館(ヴェネチア市立美術館連合財団 Palazzo Fortuny)でのTRA展参加など、海外からも注目される。2011年、作品集『OSAMU KOKUFU』をアートコートギャラリーより出版。

特集●自然災害に立ち向かう力を求めて

序論	東日本大震災から学ぶ教訓と課題 ●室崎益輝	12
論考1	これからの都市防災～防災から減災へ～ ●紅谷昇平	17
	災害のある国の住まい方を求めて ●牧 紀男	19
論考2	被災地方都市の再生 ●塩崎賢明	21
	集落居住の持続性と減災文化～信仰・地名・生活文化～ ●山崎寿一	23
論考3	東日本大震災被災地での再生支援プロジェクト	25
	1. 番屋プロジェクト: 既存社会組織への一石 ●竹内 泰	
	2. 志津川小アクションリサーチプロジェクト ●石原健也	
	3. 復元模型による集落再生支援 ●機橋 修	
年頭のこぼれ	2012年を迎えて ●中井進	1
今年の抱負	常設委員会 ●米井寛・瀬戸川 遼・上原正行・山形政昭・松原徹雄	2
会告	第7回「これからの建築と社会」講演会 [演題] 東日本を襲った津波と大規模自然災害への備え/今後の展望. 第28回茶室見学会「野村碧雲荘」. (社)日本建築協会東海支部主催「佐久島クラインガルテン、アートを巡る旅」	3
作品作風	西予市庁舎	6
3.11 関西から	被災地支援の経験をとらえて ●澤田純一	8
のメッセージ		
gallery	新たなコミュニケーションの場—ホテル&アパートメント— ●中原典人・青木耕治	10
法令コーナー	和歌山県景観支障防止条例 ●矢代敦久	31
構造の頁	世界最高強度1000N級建築用鋼材を初採用—住友金属工業㈱総合技術研究所新研究棟— ●吉澤幹夫・白沢吉衛・泰泉寺稔子	32
再読	芦屋市民会館 ルナ・ホール ●橋本健治	33
関西近代建築		
随想	碧雲荘の建物を巡る ●中村昌生	37
デザインコンクール	第57回工高生デザインコンクール	41
Member's Forum	檜野崎灯台旧官舎の改修 ●吉永規夫・本多友常	48
関西の建築界群像	宮本佳明 ●藤原芳寿	50
information	平成23年度建設リサイクル法説明会. 企画 東京ステーションギャラリー—現代絵画の展望 24の時の瞳. NHK大河ドラマ50年 特別展「平 清盛」. 三井家伝来 能面と能装束—紙と幽玄のかたち—. KOBE de 清盛 2012. 新春によせて 近代の日本画・油絵画. ホノルル美術館所蔵「北斎展」葛飾北斎生誕250周年記念. 鉋削り体験. 柳 宗悦展—暮らしへの眼差し—. 大阪市立科学館 プラネタリウムリニューアル記念作品. 中国近代絵画と日本. スージー・ズーの世界展	51
月間の動き	平成23年11月	58

本文デザイン 高橋善丸



今月の表紙

舟島 2002年/木、鉄、樹木、土、他/600×450×140 cm

2002年、とある海岸に突如巨大な鉄の箱が漂着した。それは「メガフロート」という人工の浮島だった。私は、人の手を離れた人工の土地が、太陽の照り付ける広大な海原を誰の目にも触れずに悠然と漂う姿を想像した。その土地を訪れるのは羽を休めに降り立った渡り鳥だけ、そんな時間を思いながら作った。(國府)